



# 記者手帳

産業廃棄物処理業界は1970年代、

廃棄物処理法の成立・施行に伴い形成されてきた。当時の処理企業のリーダーも今は60-70歳代となり、世代交代が本格化している。

処理業界を取材で回っていると、各会社とも経営の主導は、大半が30

代、若いリーダーが活躍し、人を育て、グイグイと会社をけん引しているリーダーは、いくつかの共通

点がある。まず、第一に現場をよく知っていること。若くは現場に入り、営業のみならず収集運搬の運手や工場作業に至る

まで、一通りの実務に携わってきた体験を持ち、なにかつ、その感覚を生かし、現在も常に現場を歩きリーダーを張り巡らしている。そこでも離れていく。

## ニューリーダーの台頭

40歳代に移っている。

2世リーダーは親世代に比べスマートで、ある意味ドライだ。しかし、お会いして個々にお話を聞

点がある。まず、第一に現場をよく知っていること。若くは現場に入り、営業のみならず収集運搬の運手や工場作業に至る

とらえた情報には即座に反応して手を打つ。時には現場の「カイゼン」であったり、新規事業のネタであったり。

産廃処理・リサイクル業界の発展のため「一人でも多く、このような優秀なリーダーが台頭してほしい」と望むばかりだ。(恵)